

令和5年度指導改善プラン

《学校の教育目標》

ひとりだち

～自立・共生・貢献～

P

《児童生徒の実態》

- 自他との意見の違いについて考える楽しさを感じている生徒が増えてきた。
- 考えをまとめたり、表現したりすることに苦手意識をもっており、学びの深まりの実感につながっていない。

《西可児学校で育成すべき資質・能力》

・身に付けた知識及び技能の中から、課題の解決に必要なものを選択したり、状況に応じて適応したり、複数の知識及び技能を場面に応じて組み合わせたりして、自在に活用している姿。

D

具体的方途①（前期）

- 1 教科等間でつながる指導計画の工夫（単元や複数単元を見通す）
(1)教科における育成したい資質・能力を明確にした単元イメージ図の作成（逆向き設計の意識）
(2)教科等間での「学び」を関連付けた単元の構成（「学び」とは、学習内容や題材、資質・能力）
- 2 教科等間でつながる思考の場の工夫（単位時間・どの教科でも行っていく）
(1)教科等間で共通した思考の場の設定（選択、適応、組み合わせる場をどの教科でも設定する）
(2)思考ツールの活用による思考の可視化の工夫（思考力を育成するための具体的な手立て）
- 3 学習評価の工夫
(1)汎用性を実感できる指導と評価の工夫（単元、生活、教科等間のつながりを感じられる評価）

C

時期・何で・どのように

- ・5月の初任者研修会場校としての授業実践，5月，7月，10月，11月の全校研究会での授業実践を通して，具体的方途の検証を行う。
- ・4月に行われた全国学力，学習状況調査の結果から，具体的方途の検証を行う。
- ・6月，12月に生徒アンケートを実施し，具体的方途の検証を行う。

A

具体的方途②（後期） 「指導と評価の一体化」事業による指導を基に変更

- 1 指導計画における「見える化」
(1)教科等における育成したい資質・能力の明確化 (2)資質・能力を身に付けるための指導と評価の位置づけ
- 2 指導過程の工夫の「見える化」
(1)学ぶ目的をもち、学ぶ意欲を高める導入の工夫 (2)自己の学びを広め、深める手段や場の工夫
(3)自己の学びを自覚できる終末の工夫

C

実態の変化・意識の変容

- ・「指導と評価の一体化」を踏まえた指導案の本校のひな型ができ、単元、単位時間の計画を考えることで、指導事項が「見える」ようになった。
- ・教師が単位時間で指導しきることを明確にし、その成果をどのように評価するのかを明らかにしたことで、その時間の中で即時評価し、次の指導改善へと繋がった。
- ・生徒がその場で学習状況を把握したり、思考の過程を自覚し、教師や生徒間で共有したりすることで、学習改善していくきっかけが見えた。